

第21回・第3期第2回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 会議録	
開催日時	平成29年10月25日(木) 18:30~20:45
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
次 第	1 開 会 2 議事録の確認 3 議 事 (1) 第3期の取り組みについて ・ 協働の事例集の作成 ・ 地域ごとのまちづくり計画見直しガイドラインの策定 ・ まちづくり協議会の条例化について ・ NPO法人と行政の協働について (2) まちづくり計画見直しガイドラインの作成について 4 その他 地域自治の推進に関する請願について 今後の日程調整について 宝塚市協働のまちづくり促進委員会第2期まとめ動画のアップロードについて 宝塚市まちづくり協議会市民向け案内ちらしについて 宝塚市協働の指針市民説明会プロジェクトチームの結成について 宝塚市協働の指針職員研修会の実施について 5 閉会
出席委員	久委員長、足立委員、飯室委員、成瀬委員、加藤委員、平石委員、石谷委員、田中委員、中山委員、野田委員、檜垣委員、溝口委員、喜多委員、光村委員、藤本委員、
開催形態	公開(傍聴人4)、関西総合研究所3人、OM環境計画研究所2人

1 開会

第21回・第3期第2回宝塚協働のまちづくり促進委員会の開会。

事務局から、本日の出席者は15人、欠席者は4人であること、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は4人であることを報告した。

事務局から支援事業者の紹介と業務内容の説明があること、仕様書など添付資料があることが説明された。

2 議事録の確認

第20回・第3期第1回議事録を確認し、承認。

3 議事

(1) 第3期の取り組みについて

事務局から、今年度の議題について、以下の確認がなされた。

- ・事例集はマニュアル部会でつめる。12月に成果を報告する。
- ・ガイドラインはこれからスタートし、3月に完成する予定。
- ・まちづくり協議会の条例化に関する議論。
- ・NPOと行政の協働について検討する。

ア まちづくり協議会の現状分析をして、その課題を抽出してはどうか。それにより、現場が改善されると思う。

イ【会長意見】2期でガイドラインづくりの中で議論し、その成果をまとめた。それ以降、促進委員会としてまちづくり協議会にどのようにお手伝いさせていただくのがよいか、整理できていない。他にも協働の仕組みづくりなど議題もある。まちづくり協議会連絡会で議論していただいた方がよいのではないか。この委員会には、まちづくり協議会に参画している委員とそうでない委員がいる。どう役割分担するのがよいか。距離を置いた者として関わる方がよいか。どちらがよいか意見交換したい。

ウ 促進委員会は上位にあると思うので、ここで決めてもらったことをまちづくり協議会に伝えてもらう方が、現場がスムーズに動きやすい。

エ まちづくり協議会から促進委員会で議論してもらいたいことがあれば、まちづくり協議会で意見を統一して提案してもらって議論した方がよいと思う。まちづくり協議会と促進委員会メンバーとが横一線で、コンセンサスを得られて1つの目標に向かっていくのか？と思うことがある。まちづくり協議会の会議に出ると、ちょっと違うなと感じることが多い。むしろ提案をあげてもらうのがよいと思う。このメンバーも全員がまちづくり協議会出身者というわけではないので、その方がよいのではないか。

オ 平成20～22年にまちづくり協議会の代表者会議に出席した。市役所がリードしており、連絡ばかりで議論はできていなかった。フォーラムを開催した時に、お互いのまちづくり協議会のことなど、いろいろな意見が出て、こんな場がよいということになった。それ以後、まちづくり協議会主体で情報交換しようということになった。まず、まちづくり協議会の代表者同士が話し合ってみてはどうか。そこから全市的な課題があれば、委員会に出してもらってはどうか。

カ 会則で、会の目的が「連絡」になっており、問題点を持ち寄るものになっていない。

キ 前回の代表者交流会で、ワークショップをやろうということになった。課題として、「後継者育成」と「協働のパートナー」に関して話し合う。交流会では時間がないので、別途、場を設けることになった。

ク 委員会の議題の中に、まちづくり協議会の課題も検討することをいれていただければよい。

ケ【会長意見】検討することを随時、提案していただければよい。まちづくり協議会の意向が今はわからないので、まず代表者会議で検討していただくのがよい。ガイドライン作成時も、どこまで踏み込むのかについては、デリケートな問題として扱ってきた。

コ 「協働の指針」に記載していることをいかに伝えるかが課題だ。行政内をどうするか優先順位が高いのではと考える。

サ【会長意見】行政側の「協働」を評価する時に来ている。評価とは、文句を言うことではなく、よい方向を一緒に考えるということだ。

- シ 第5次総合計画では、「協働」について、市からも資料が提供され、検討した。
- ス【市】市としては、各課に照会をかけて、NPO、市民活動団体と協働している事業数を挙げてもらったが、検証まではしていない。
- セ 1年ごとにPDCAを回して進めていくことになっている。目に見える形で評価を報告してほしい。
- ソ【市】市では、施策評価を実施しており、総合計画の38施策ごとにチェックしている。行政評価委員会(外部)でも、協働の視点からのチェックを行っていただいている。
- タ 38施策を3つに分けて3年間かけて、順次検証している。シートの中に協働でどういう取り組みをしたかが書かれている。これとリンクするとよいのではないか。今年は夏に委員会が終わったところ。契約の見直しも大切であるという意見もあった。
- チ【会長意見】来年度は、協働事業の検証も実施項目としていく。いろいろなタイプの協働事業がある。全体として検証していくのか、モデル的に事業をピックアップしていくのか。他市の検証方法も情報収集して、独自の検証方法をあみだしていければよい。
- ツ NPOとの協働について提案したが、部会を立ち上げてやるのがよい。
- テ NPO法人との契約についてだけでよいのか。まちづくり協議会も自治会も広義の意味ではNPOである。契約も発生する。みんなで一緒に考えていきたい。
- ト 協働事業を実施する際に、委託や指定管理があるが、事業者、任意団体、NPOそれぞれにいろいろな事業の出し方があって、基準が異なる。協働の事業を見る視点で、全体の中で整理するともっとはっきりすると思う。マニュアル部会が終了したら、とりかかってはどうか。
- ナ【会長意見】12月20日の全体会で事例集の報告をする。全体の仕組みを点検後、行政とNPOとの協働の頭出しをするが可能か。事務局側で、その時間はとることはできるか。
- ニ【市】問題ない。
- ヌ【会長意見】それでは、12月20日に行政と団体の契約について議論しよう。NPOと行政の間にどのような課題があるのか、条例など、行政からも情報提供してほしい。
- ネ【市】公契約条例、公費や委託など契約についての内容を再検討する予定であり、その審議会が12月に立ち上がる。これから中身の検討をすると重なるのであわせて議論してほしい。

【会長まとめ】

- ・行政との協働事業を検証する。
- ・NPOと行政の協働事業の契約問題については、12月20日から検討する。
- ・まちづくり協議会の運営の課題については、まず代表者会議で議論してもらい、提案があれば促進委員会で検討する。

(2) まちづくり計画見直しガイドラインの作成について

委員より、「まちづくり計画」に関わるこの間の経緯について、資料に基づき説明がなされた。

- ア 説明された内容を理解するために、新しい委員だけ集めて、資料などを確認しながら、説明を受ける必要がある。そうすれば、頭が整理できると思う。

イ 説明された内容が分かっていて、まちづくり協議会を運営している人がどれだけいるのだろうか。現行のまちづくり計画を○△×でチェックしたところ、達成率が3割、5・6割、7・8割と3つに分かれた。良い計画はできたが、手をつけやすいことしかできていない。現状を知ってもらえないと、ガイドラインも生きてこない。

ウ【会長意見】現行計画が、地域で受け継がれていない、行政もうまくつながっていないという課題がある。その原因を見直し、それを踏まえて、ガイドラインづくりを行う必要がある。原因が見えてくれば、どうすればよいか知恵を絞る。それを凝縮してガイドラインを作って、今のような課題を起こさないようにしたい。

関西総合研究所とOM環境計画研究所より、見直しガイドラインについての資料が説明された。

ア まちづくり計画とは、まちづくり協議会でやってほしいことなのか。他の主体でやってもよいのか。行政が受け取ってやるものなのか。

イ この委員会では、まちづくり計画を見直すための仕組みを考える。ガイドラインづくりは、まちづくり協議会の声も聴いて見直す。計画は、まちづくり協議会が議論してつくる。

ウ【会長意見】3月28日の全体会でガイドラインを決定する必要がある。それをもって、4月からすべてのまちづくり協議会でガイドラインに沿った計画の見直しが始まる。その後、2年かけて計画づくりとなる。第6次総合計画にその計画が位置付けられる予定となっている。

オ 前は、まちづくり協議会の代表7人と有識者と数人の市民代表が集まってガイドラインを作って、それに沿って各まちづくり協議会で計画を作った。今回はここ促進委員会で、見直し方から議論できればと思う。ここだけで決めても見直すのはまちづくり協議会だから、途中、まちづくり協議会の意見も聞く。

カ 前はガイドラインに沿って計画を作ったが、出来栄はまちづくり協議会によっていろいろであった。十分な検証ができていない。具体的に書かれているものについては、住民主体のもはある程度達成できている。私の意見だが、行政、および行政と住民がやるものについては、かなり手つかず。行政ともすり合わせができていないので、未達成のものがある。計画は作ったけれど自分たちではできないことがあった。次の計画では、計画を固める段階で、行政にかかわってもらい、行政と話し合っ、すり合わせをしていく必要がある。実行できるものにするためには、計画を作る段階で協働しないとイケない。そうしないとまた同じ繰り返しになる。計画そのものはよいものがある。それができていなかったことを見直す。行政とのすりあわせが不十分だった。また、見直しも提出したが、それがどうなったのかというフィードバックがなかった。○△をつけて、その結果を出して終わりだった。やったことに対しての評価が次に生かされていない。

キ 私の地域では、すべてにアンケート調査をして計画をつくった。平成15年から15年の間の経過がよくわかる。見直しはしているが、具体性がないものもあり、課題もある。もう一度、現行の計画を見直すことが出発点になる。これを踏まえて、議論に入るのがよい。

ク 理想論になっていないか。今のまちづくり協議会には、温度差があり、今の状態を維持することが精いっぱいのところはほとんどではないか。人材がない。古い人が続けているから、どうにかもちこたえている。毎年、報告書は出ているが、行政は報告書を見るだけでなく、現場を見て欲しいと言って、来てもらえるようになった。これでどう変わるか、みていきたい。最近、防災に力を入れるようになってきた。毎年の行事を損なわないように進めている。どんどんよくなればよいと思うし理想はわかる。計画づくりは大事なことだが、併行してできるだろうか。

ケ【会長意見】 いろんな地域でまちづくり計画を作っているが、作り方も気になる。まずは大きな方向性を共有すべきなのに、個別具体のことを書きすぎではないか。このまちがどうあってほしいかという将来像を共有できているだろうか。それがあってこそ、事業やサービスが見えてくる。細かいところが書かれているわりには方向性が共有できているか。行政の計画では、将来像を「基本構想」として、取り組みの方向性を「基本計画」として、具体的なことを「実施計画」として3段構えでまとめている。地域のまちづくり計画で、この3段構えがうまく整理ができているか。実施計画レベルだけでなく、方向性をきちんと議論してほしい。大きな方向性をきちっと議論するのが、最初の1年間だと思っている。

市と地域の関係としては、市は地域からニーズを出してもらい、行政版の地域まちづくり計画をつくる。これを地域に返して、地域側は採用されなかった部分を復活折衝するというやり方もある。何回かやりとりをして協働すること、行政の役割は何か協働するのは何かを決めていく。そのプロセスで関係を作っていくのがよい。計画ばかり考えると、見えなくなる。

また、行政の立場で考えると、「こうしてほしい」と具体的な要求をされると動けないということがある。一つの例えだが、おなかがすいたからごはんを食べに行こうというのなら話に乗れるけれども、この店の5000円のコースを食べさせてほしいという返事ができなくなる。こういう状態だから、ここを何とかしてほしいというレベルで、行政にやってほしいことを書くようにするなど、内容とレベルをきちんと議論するとよい。

これらについて、11月30日の仕組み部会で議論したい。現状の課題がどこにあるのか。つくり方のレベル、つくった計画をどう見直していけばよいか、など出し合って共有したい。計画の作り方のガイドラインではなく、見直しのガイドラインとして。

コ 行政への要望は、具体的に出した方が、実現率が高いと思うが。

サ【会長意見】 それは、かなえてもらえる内容をもっていくからではないか。聞いてもらえないことが多いので、返事が出来なくて止まるのだと思う。そこが今回の見直しの重要なポイントだ。

シ 行政がやること、自分たちでやること、協働でやることの記載はされているが、本当にできるのかを詰めて検討していなかった。住民側でも進捗チェックはしたが、評価はしていない。前回のものは、良い計画が出ているのに進んでいないというのが現状。自分たちで考えて一緒になってやっていこうということだから、住民だけの計画ではなく、行政がちゃんと理解したものを作る必要がある。お互いに意見を出し合う、地域の計画と行政の計画をすり合わせて、実現性の高いものにしたい。

ス 市民がやること、協働すること、行政がやることと分けて整理したが、まちづくり協議会によっては行政への要求が多いものもある。なぜこのような計画になったのかが問

題。まちづくり協議会組織をつくった時の問題でもある。西谷地域では、警察や消防も入って議論している。構成員が違えば、計画も異なる。まちづくり協議会の作り方自体、地域任せだったからバラバラになっている。また、計画を誰が決めたのかもはっきりしない。まちづくり協議会が全体を代表する機関であり、議決機関を有しているところは半分ぐらいしかないのではないか。計画を見直しながら、まちづくり協議会の運営も検討できればよい。今回は、市とまちづくり協議会の協働しかなかったが、次は市民と市民の協働も意識していきたい。

セ【会長意見】これまで見直しが不十分であったという視点から、見直し方のガイドラインをつくる必要がある。他市では、まちづくり構想を7小学校区の40代の若年者が中心になって検討している。10年後20年後に暮らしている人が検討すべきだという配慮である。ワークショップを繰り返し、案をまちづくり協議会に返して議論してもらい、アンケート調査もして意見集約した。ワークショップを開催しようとしても、誰に言ったら動くのかわからないという状態では、計画も動かない。これは、これまでいどのような運営の仕方をしてきたかということで違いが出る。すべての人の声を聞いていたか、チェックする機会になる。

ソ まちづくり協議会の運営ガイドラインを活用して振り返りを行ってもらえるとよい。

タ 人口規模の違う西谷と長尾では、同じ作り方はできない。曲がりなりにも20年間まちづくり協議会が継続しているということは、地についたことができていたからだ。

チ【会長意見】個別に、それぞれのまちづくり協議会で、みんなで話し合っ決めてもらったらよい。見直しや意見集約の方法はいろいろある。コンサルにはいろんなやり方を提示して欲しい。大きな柱と具体的なメニューを。

ツ まちづくり協議会の課題は、素材だと思う。どう料理するかはまちづくり協議会で決める。レシピ案をコンサルに出していただきたい。

テ めざすべきところを共有することは大切である。ただ、そこに行くスピードは地域それぞれによって違う。仕事として地域活動している人はいない。職業の感覚で、グイグイやると無理が出る。地域活動には関わりたくないと言っている人もいる。そのような人も包摂しながら、助け合って活動していくことがはっきりわかればよい。

ト【会長意見】あまり手間をかけずに効果的にすることは大切だ。サポートは誰がしてくれるのか。

ナ 社協やNPOなど中間支援組織をうまく使ってほしい。手立てを探していきたいと思う。

ニ【会長意見】計画づくりの目的は、20～30年後のまちの姿をつくるためと考えると、30代の声を聞こうということになる。それにそって活動すると、担い手の発掘にもなる。

ヌ 子どもたちの意見も入れたい。どう集めるか検討したい。地域の中で子どもがもっと声を出せる仕組みが必要だ。

ネ【会長意見】他市のまちづくり協議会では夏祭りにベニヤ板で模造紙のシールアンケートを行って、子ども声を聞いている。ちょっとした工夫でできることもある。11月30日の部会で議論しよう。

4 その他

- ・地域自治の推進に関する請願について

資料の請願が読み上げられ、説明された。

- 今後の日程調整について
資料の日程が確認された。
- 宝塚市協働のまちづくり促進委員会第2期まとめ動画のアップロードについて
動画「これが協働やったんや」をyoutubeにアップした。
- 宝塚市まちづくり協議会市民向け案内ちらしについて
12月の広報に挟み込んで配布の予定
- 宝塚市協働の指針市民説明会プロジェクトチームの結成について
積極的にチームに入ってほしい。当日参加だけなど部分的な関わりでもよい。
- 宝塚市協働の指針職員研修会の実施について
職員研修(1月22日)には、委員にも参加してほしい。1、2期のメンバーにも呼びかける。